



「劇場空間で防災体験 ドキキ?!親子のマナビ・バ!!!」
企画団体ocotodunamo (オコトドナーモ) 活動報告





京都を拠点とし、舞台芸術で地域コミュニティを動かす企画団体です。



ユーモアを取り入れた演出を通じて、世代を問わずテーマ性のあるパフォーマンスや企画を展開し、地域コミュニティの活性化を目指します。

ocotodunamoのチャレンジ「劇場空間×防災」

- ①劇場空間を駆使し立体的で没入感のある防災体験を作る
- ②劇場装置（暗転）活用し、親子で停電時の行動や備えを楽しく学ぶ
- ③文化芸術と防災教育を融合した新しい学びの形を提示する
- ④親子での新しい体験を通じて、家庭での話し合いや備えの促進を目指す

保育園はやっているが家庭での防災共有が難しい

大切だと思うが親子で参加しやすい講座がない

緊急時の子供への対応はどうしたらいいの？

未就学～小学生の子育て世帯の声

子どももいるのに避難グッズどうしたらいい？



防災は重要だと感じるが実際時間が少ない

停電したら子どもはどうするだろう

水が出なくなったときにどうすればいいの？

京都市内の未就学～小学生の子育て世帯へ「子育て」「防災」「劇場×防災」を事前アンケート実施

劇場空間で防災体験

ドキキ?! 親子の冒険

2025/12/21 (日)
13:00~17:00

- ※さんか おりょう
- ※にゅうたいじょうは じゅう
- ※0さい~しょうがくせいまで
- ※じぜん よやく せい
- ※30ぷんまえより かいじょう

ご予約はこちら



お問い合わせは
ocotodunamo@gmail.com

●この活動では「2025年防災教育
チャレンジプラン実行委員会」及び
「子どもゆめ基金」への報告や団体
広報の為に写真・映像撮影を行いま
す。

ばしょ SPACE LFAN (すぺーす えるふあん)

〒605-0981京都市東山区本町10-151-1

電車の方 JR東福寺または
京阪東福寺より徒歩5分
お車や自転車の方 お近くの駐輪場、
パーキングをご利用ください



おやこで
停電体験
暗闇ツシヨン?

きみはどうする?

※これは公演ではなく体験型防災イベントです

企画演出 三枝真希
企画助手 森正恵
司会進行 大熊ねこ遊劇体
BPOフォーマー 合田有紀(ゴダ企画)
鈴木英理子(あやこダンスカンパニーチチカコ)
鈴木美月(あやこダンスカンパニーチチカコ)
南野詩恵(あ寿司)
内田賀須夜、岩崎靖史
美術 薬谷洋之、松川一哉、楠本由美子、小西好美、竹本泰広
衣装 奥田ケン
音響・照明 奥田ケン
記録撮影 奥田ケン
写真撮影 Daiki
チラシ ocotodunamo
協力会場 SPACE LFAN

13:05~停電パフォーマンス
13:30~おやこで暗闇ツシヨン
14:30~防災コンポストイレについてを学ぼう
15:30~おやこで1分避難シミュレーション
16:00~防災ビニールWS
(バケツリレーで停電マンを作ろう)
16:30~防災ダンスWS (トンネルあそび)

防炎と劇場のプロから学ぶ

主催 ocotodunamo(オコトドナーモ)
協力 UZUUMU(ウズーム) JDSA (一般社団法人日本災害救援活動士協会JDSA)
助成 2025年防災教育チャレンジプラン実行委員会
子どもゆめ基金助成活動

停電体験（おやこで暗闇ツシヨン）は、未就学児も参加し自分で懐中電灯を見つける自主性が見られ、想像以上の行動力と度胸に大人を驚かせる時間が生まれた。

参加者からは

「防災と楽しいは結び付かないイメージだったがとても楽しかった」

「あっという間に終わった」

「停電マンが面白かった」

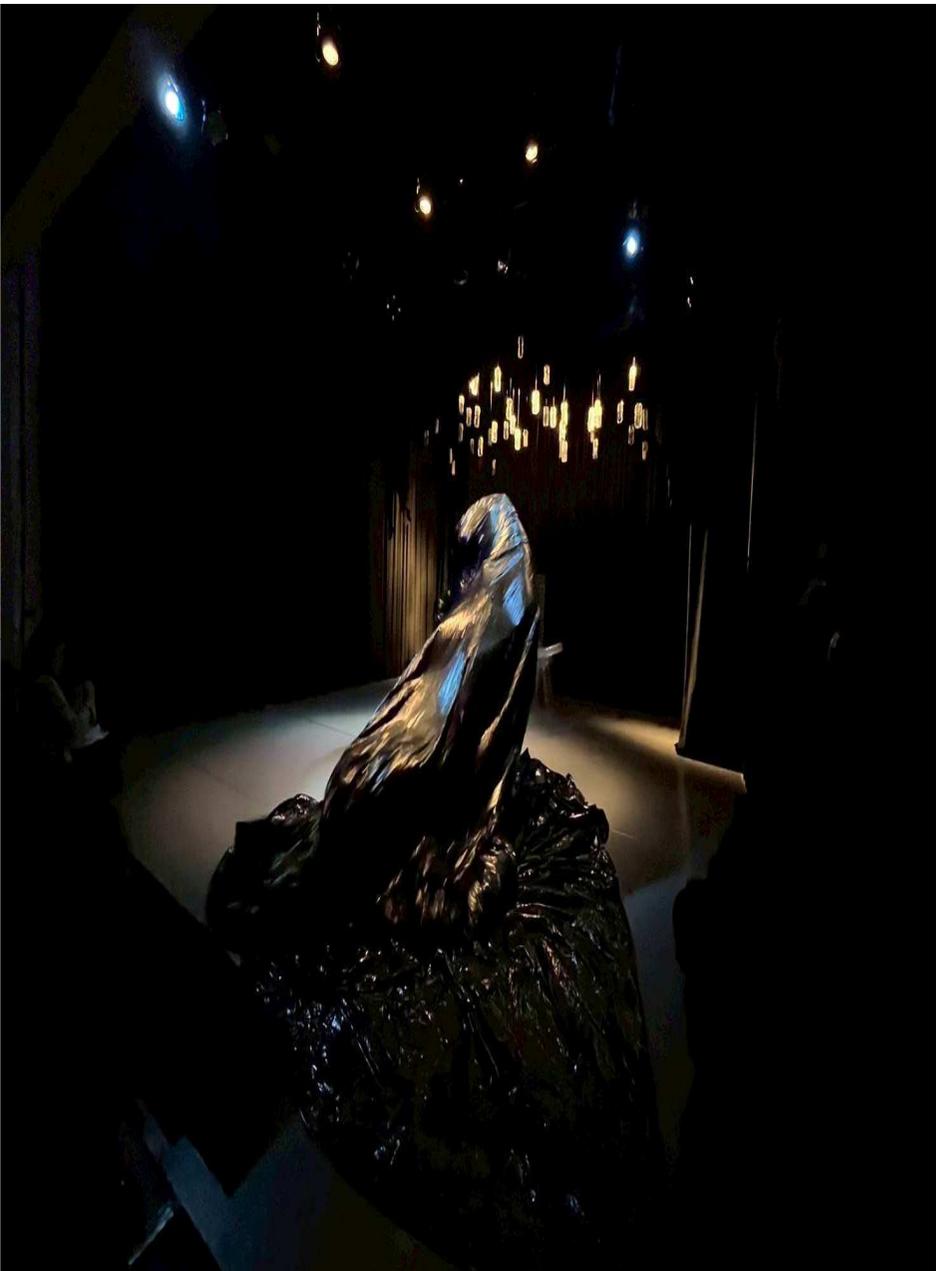
「毛布を風呂敷代わりに活用するアイデアは学びになった」

「停電はこわい」

「もっと沢山の人に参加してもらいたい」

等の大変やりがいのある内容ができた。

大人15名 子ども13名（生後5か月～15歳）が全講座に参加！！



舞台空間や演出を加えてこそ生まれる立体的で没入感のある新しい防災教育への挑戦

ocotodunamo（オコトドナーモ）3つの工夫

①4時間を飽きさせない構成と導入

全体構成は、ストーリーテラーとしての役割を担う司会者を中心に、子どもたちの反応や発言を丁寧に拾い上げながら進行する形式とした。特に停電体験の導入においては、停電を一方向的に「怖いもの」として提示するのではなく、「停電はどこから生まれるのか」という問いを子どもの視点で投げかける構成を作った。これにより、子どもたちが主体的に状況を考え、理解を深めながら体験に参加できる空間づくりを目指した。

②「動く」「考える」「提案する」プログラムにすることで主体性を育む

観客は鑑賞するだけでなく、身体を動かし、アイデアを出しながら主体的に参加する時間を多く持つ構成とした。特に「親子で1分避難シミュレーション」では、子どもに対して「なぜその行動や選択をしたのか」を問いかける進行を行うことで、参加者だけでなく周囲で見守る保護者や来場者にとっても学びを共有する機会となった。

③協力するプログラム＋音響照明効果

「防災ビニールWS」では、ビニールの活用方法や防寒の重要性を伝えるとともに、複数の参加者が協力して停電マンの衣装をバケツリレー形式で制作する体験型の講座を実施した。実践的かつ創造的な手法を取り入れることで、防災知識を楽しく身近に学べるプログラムとなった。すべての防災講座において、音響や照明を効果的に用いることで、内容を視覚・聴覚・体感を通して理解できる立体的な学びとなることを目指した。



今後の課題と改善

- ・ 12月のインフル流行により集約面の難しさや、劇場空間（密封）への不安感
→開催時期の変更し通常開催を行う

- ・ 成果映像を作成し一般公開することで活動の周知に努める

今後の展開

- ・ 反応が高かった講座を精査し、会場規模に応じて実施可能な小規模パッケージとして再構成する。

- ・ 小規模パッケージを活用し、幼稚園・保育園・小学校への実施を検討することで団体の実績と地域との繋がりを作る

- ・ 教育現場や地域での実施を通じて得られたフィードバックをもとに、内容・演出・運営体制をブラッシュアップし、第二回の劇場型防災イベントを企画する。

今回のチャレンジを通じて、「防災を楽しむ」という重要性を実感する貴重な一年となりました。ご清聴ありがとうございました。